

さとひがし

学校教育目標

☆自ら学び、心豊かでたくましい子どもの育成

「み」 自ら学ぶ子

「や」 やさしく思いやる子

「げ」 元気な子

大津市立仰木の里東小学校 学校だより No.10

令和2年2月20日(木)

問い合わせ先 TEL 077-574-2245

FAX 077-574-2247

3学期はあっという間です!

それぞれの学年で次年度の準備を!!

令和2年がスタートしてはや2月も半ばを過ぎました。1月後半、インフルエンザにより学級閉鎖となった学年もありましたが、今は元気に登校する児童の皆さんの姿が見られます。2月、3月はまだまだ寒い日が続きます。手洗い、うがいの習慣を身につけて、自分の身体を大切にしてほしいと思います。

さて、3学期で最も大切なことは、次の学年へのステップ・アップをするための準備の期間であるということです。特に6年生は、卒業式をひかえ、最後の小学校生活の充実と、義務教育最後の中学校生活に向けて、中学1年生になるための準備だけでなく、さらに向こう3年間を見通した長期的な計画を立てることが必要になります。

仰木中学校からは、1月17日(金)に6年生児童向け中学校説明会、2月4日(火)には6年生保護者向けの中学校説明会がありました。小学校との大きな違いとして、各教科学習は、毎時間教科担当が入れ替わり教室に来て授業を受けることとなります。小学校は、ほぼ一日学級担任と過ごしますが、中学校の担任とは朝学活、担任の教科がある日の授業、給食による昼食指導時、帰りの学活でのつながりとなります。何事も、自分自身で判断し行動することが要求されます。さらに新たに部活動が始まります。運動部、文化部とも生徒が主体的に部活動を行います。対外的な練習試合や公式戦、コンクールや発表会等、学校を越えた活動となります。6年生のみなさんは、中学生になるという自覚とともに、希望をふくらませ着々と4月からの準備を始めてください。

他の学年のみなさんは、1つ学年が上がるにつれ、勉強の内容もより深くなり、変化に富んだ学年行事も期待されます。宿泊を伴う大きな行事としては、4年生は葛川ふるさと体験学習、5年生は琵琶湖フローティングスクール、6年生は修学旅行が待ち構えています。学校全体としては、音楽のつどいや運動会等があります。今から頑張りたいと思うことや目標をしっかり立てて、次の学年の準備を始めてほしいと思います。



今年最後の学習参観日



2月18日(火)は、今年最後の学習参観日で、たくさんの保護者の皆さんが小学校参観に来られました。各学年とも参観日のためのプログラムを用意して発表形式で日頃の取り組みを紹介していました。個別発表として写真を織り込んだ発表があったり、漢字クイズであったり、コマ回しなど得意技を披露して大きな拍手をもらっている児童も見られました。また、1年間のクラスの思い出をじっくりかみ



しめながら、大きな声でクラスの歌を歌うクラスや、クラスのエピソードをテレビのワイドショー風に紹介したりして、楽しく盛り上げる工夫の数々に、保護者の皆さんより大きな拍手を受けているグループがありました。1年という長いつながりの絆は深く、児童や担任の先生目から涙がこぼれる場面が見られました。今年一年間、『ぬくもりのある学校』を目指して、特に自らあいさつができる児童の育成に力を注いでまいりましたが、少しずつですが浸透してきました。6年生のある男子が、「卒業まであっという間やなあ...。」とつぶやいた言葉と表情の中に、名残惜しく卒業していく気持ちと、これまで大きく育てていただいた保護者への感謝とともに、同級生や先生を思いやる「ぬくもり」を感じ、とてもうれしい気持ちになりました。



第3回仰木の里東 小学校・幼稚園 協力者会議



2月14日（金）に、第3回小学校・幼稚園合同の協力者会議を行いました。会議の冒頭に、去りゆく6年生の代表から、学校協力者の方々への卒業メッセージを発表してくれました。今年の4月から中学生になるための決意文字を示しながら、今の気持ちを力強く表現してくれました。代表の児童の皆さんが発する熱いメッセージにより、協力者の皆さんの誰もが心から感動され、校長室はとて大きな拍手に包まれました。



会議では、1年間の幼稚園・小学校の取り組み報告と、学校園の評価について、意見交流を行いました。代表的なご意見として、「3割評価」という考え方があり、プロ野球でずっと打率3割をキープするバッターを例に挙げ、何事も挑戦しての3割評価は「すごい事」であり、「できている」と判断すべきで、常に前向きに上を向いて取り組むことこそ大切であるというご意見や、地域の方々とのふれあいの中で、共に子どもを見守り、「あいさつやお礼が言える子の育成」が大切である。「ICTの活用の重要性や、地域を交えた防災教育の推進にもっと力を注ぐべきである。」とのご意見等、他にもたくさんのご意見を頂戴しました。



また、教職員が働き方改革を推進する中で、時間を有効に活用し、もっと子どもたちと深く接していくために、「教員は常に子どもの良いところを見つけ出す努力をすべきであり、心から子どもたちと笑顔で話れる時間を生み出し、真剣に子どもの声を聞く姿勢を大切にしてほしい。」とのご意見をいただきました。



最後に、次年度より発足する幼稚園・小学校合同学校運営協議会の素案について紹介させていただきました。今年のテーマである「あいさつができる学校・ぬくもりのあるまち」を、地域や保護者の皆さんとともに引き続き盛り上げていきたいと考えています。

携帯スマホ安全教室より



2月19日（水）に、6年生は滋賀県警察本部生活安全部サイバー犯罪対策課と大津北署生活安全課から、4年生はKDDIスマホ・ケータイ安全教室講師に来てもらい、携帯スマホ教室を実施しました。このようなお話を聞くたびに、機械の機能がめまぐるしく進化し、その取り扱いに全くといっていいほどついていけないと感じることがしばしばあります。最近では若い子どもたちだけでなく、大人もはまるようなネット対戦型のオンラインゲームや、LINEも多様化しています。時には子どもたちのほうがはるかに複雑な機能を理解して活用している場面も見受けられます。



年々多様化するスマホや携帯、パソコン等様々な端末が氾濫する世の中では、学校教育だけで子どもたちの健全育成について指導を行うことには限界があります。最近では、ネットに関するトラブルの未然防止には学校だけでなく、教育関係機関と連携して取り組んでいますが、**一度トラブルが起こってしまうと、それはもう学校の指導範囲を超えてしまうことにもなります。（保護者自らが警察も含めた教育関係機関に相談して問題解決に向かっていただく等）**

子どもたちにとって便利で都合の良いスマホや携帯であっても、**いじめにつながったりトラブルに巻き込まれたりする危険と隣り合わせの道具である**ことを再認識し、子どもたちだけの学習とせず、教師や保護者も取り扱い方や責任の所在、さらには問題解決の方法等について、しっかりと考えていく必要があるのではないかと感じています。